

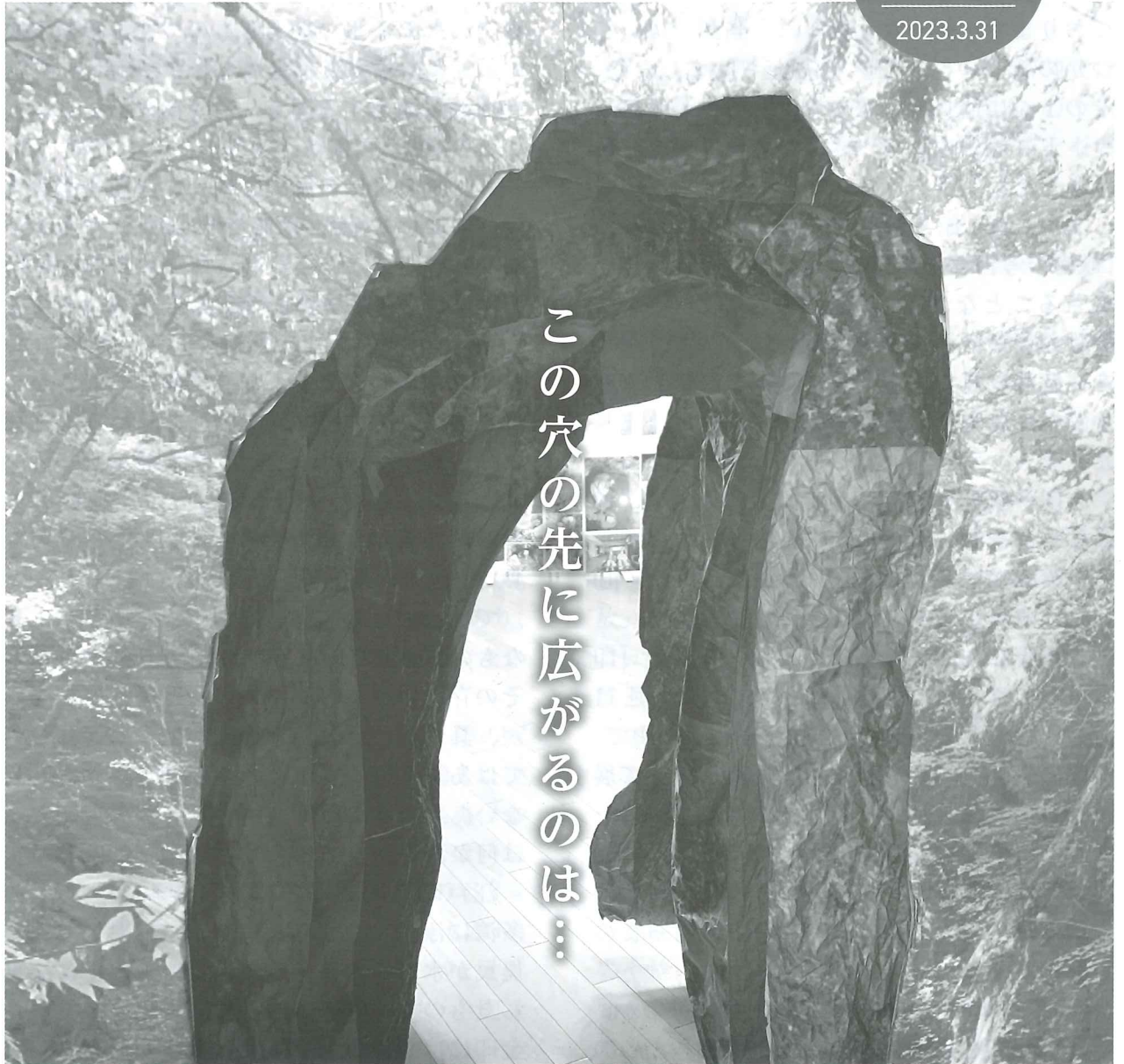
甲斐黄金村・

# 湯之奥金山博物館だより

国指定史跡・甲斐金山遺跡—中山金山

No.103

2023.3.31



開館25周年の締めくくり！

企画パネル展「鉱山史研究のいま」開催中！

# 福岡から山梨にやって来た国宝「金印」を見た！

— 第15回いでさんぼの成果から —

甲斐黄金村・湯之奥金山博物館 館長 出月洋文

この国の元号が令和と改まり早5年となっております。その改元の年に、当館ではいくつかの新しい試みをスタートさせましたが、その1つに館長講座があり、その館長講座アウトドア版ともいえるべき「いでさんぼ」がありました。

文字どおり館長が担当する館内での90分の「峡南の考古学」を主軸とした座学の館長講座もさることながら、別にフィールドに出て、博物館周辺の地域の生の歴史について、現地を注意深く見て、細部まで読み解こうとするいでさんぼもそこそこに人気を博してきました。

今回の話題は、第15回いでさんぼ（3月13日開催）を振り返りながらわが国、すなわち日本が誕生する頃に光り輝いていた「金印」について焦点を当ててみたいと思います。

この春に山梨県立博物館では、企画展『印章一刻まれてきた歴史と文化』（会期：3月11日～5月8日）が開催されています。この中で、国宝の金印が、3月21日までの期間限定で展示され、その後はレプリカでとされていました。そこで何としてでも実物の「金印」を見ておかなければと、「福岡から山梨にやってきた国宝金印に会いに行くぞ！」と銘打ついでさんぼとなったしだいです。

なぜ金山博物館のいでさんぼで金印なのか。

そこで皆さんに思い出していただきたいのは、当館常設展示の最後の壁面に掲げられている、「黄金は永遠に」とのタイトルがある解説パネル（図1）です。ワールドワイドな視点で、金の歴史を確認するパネルは、上段が世界的な金のあり方、そして下段がわが国の中での金の流れと、世界と日本を対比しな

がら、人々が金とどのように関わってきたのかをまとめる狙いがあるものです。その下段の最初に、日本人が初めに手にした金として、今回の話題とする国宝「金印」が図示されているのです。

わが国の金山の歴史を紹介する博物館の重要課題として、金とは何だろうか、というテーマがあり、そこから「金っていいよね」という館オリジナルのキャッチコピーもあります。

こうした点に立てば、国宝の「金印」が、わざわざ福岡まで行かなくても、向こうからやって来てくれる・・・、それを見ない手はないでしょう、との考えが必然的に浮かびます。こうしたことが、今回開催のいでさんぼの企画意図であり、そのタイトルにもなっていたのであります。

ではその「金印」とは、いったいどのようなものなのでしょう。教科書にも載っていて、その存在は誰もが知っているという感じがしますが、具体的にどういう意味を持つか、についてはあまり深く受けとめられてないかもしれない。ということで、あらためて「金印」とは何か、確かめておきたいと思います。

江戸時代の天明年間（1781～89）に、博多湾に浮かぶ志賀島（福岡市）において、一農民が水田用水路を改修のため掘削中に発見したもので、石囲い施設の中に収まっていた金印には「漢委奴国王」の文字が陰刻されていたのです。直ちに当地を領有する黒田藩内で研究が始まり、数年のうちに江戸にも情報が伝わったとされています。こうした発見の経緯から得られた金印は、福岡藩主の黒田家にて大切に保管され、近代に至って国宝となりました（1931年）。1978年には黒田家より





図1 「黄金は永遠に」年表  
(右は一部拡大)



図2 「印章」展見学の  
いでさんぽ開催状況

図3 NHK甲府で紹介  
(写真は同局HPより)

福岡市に寄贈され、いまは福岡市立博物館において展示公開されています。発見直後から、『後漢書』が伝える倭からの朝貢のお返しとして当時の皇帝より与えられた印綬に相当するものとみられてはいました。現在では、わが国の古代国家の成立過程の一断面を雄弁に語る、たいへん重要な歴史資料という位置づけになっています。

わが国の金印の時代のことをもう少し細かに、古代中国の正史に記すところによってみると、西暦紀元前後の頃、大陸に近い北部九州を中心とした日本は、倭と呼ばれ、クニというまとまり（小さな地域国家）がいくつも登場してきていました。その状況を伝える『漢書』地理志の「楽浪海中に倭人あり、分かれて百余国をなす」という記述は、たいへん有名なフレーズになっています。

これに続く西暦57年のことですが、倭の奴国から後漢の光武帝のもとに貢物を携えた使いが海を渡ったことが『後漢書』の東夷伝や光武帝紀に見えます。この時、光武帝は自らの“漢”の属国として奴国を認め、“漢の委（=倭）の奴の国王”（※通説による。異説もあり）という金印を下賜したと考えられています。いまの博多地域にあった奴国が一躍、中国を中心とする当時の東アジア社会の中で、一定の地位を得、後の“日本”の成立に向けての第一歩を記したことをこの国宝金印が裏付けているといえます。

実際の金印ですが、方形をした印面の一辺は約2.3cmで、これは現行の10円硬貨の直径とほぼ同じ。思っているよりも小さいな、

という印象を与える大きさです。金の純度は95%ほどで、その重さは108.7g、4.5gの十円硬貨に換算すると24枚分。印のつまみとなる部分（紐）はとぐろを巻いた蛇を表したものとされています。

今回のいでさんぽでは、その本物を間近で見ることができました。

新型コロナウイルスの問題は、まだ完全に終息したわけではないことから、現地集合、現地解散、参加者ごとに個別にチケットを用意いただいたの見学会でした。たいへん急ごしらえな設定で十分な周知ができていませんでしたが、それでも10名程のご参加をいただき開催にこぎつけました。折からNHK甲府放送局の取材をいただき、翌日にはローカルニュースの中で放映されました。2分近くの放送の中に「金印が約2千年前の日本と中国との関係を物語っていることに深い感動を覚えた」との参加者の感想もあって、後日にこの反響も聞かれました。

この企画展は、金印のみに注目がいきそうですが、実際に展示を観覧すると、身延町内の寺院等に伝わった穴山氏関係の資料群（文書や絵画など）の中の印章や、ハンコの里と知られる市川三郷町岩間地区の印章産業のことなど、数多くの印章に係る歴史文化を見ることができ、たいへん充実した時間をいただくことができました。多くの関係の皆さまのご尽力に対し、感謝の念をいadakずにはいられないものとなりました。



## 2/9 ㊦、14 ㊦ 大城金山砂金採掘坑調査

金の産状について、山金・柴金・砂金の大きく3パターンに分けることができ、それぞれ採掘技法も異なります。甲斐金山遺跡の歴史から明らかとなった初源期山金採掘における鉱山技術やあり方については当館の展示で紹介しているとおりです。

砂金産地としては国内初産金の地である東北地方や、“東洋のクロナダイク”とまで称された北海道など、その歴史や技術が多く取りまとめられています。一方、柴金産地は静岡県の井川や北海道の美利河の地が有名です。これらの現地では、現在は川の流れのない山中に砂金を採掘した後に残った川石のような丸い礫岩が堆積し、またその石で人為的に石積みされるなど、柴金遺構としての特徴点を確認できます。しかしながら、山中でどのような作業が行われていたのか、河岸段丘に堆積した金を採掘するための技術や方法の詳細について、鉱山史的に明らかではありません。

実は身延町内にも、2つの柴金採掘遺構があります。そのひとつが大城川沿いの湯平。詳細な史料は残されていませんが、大城川に注ぐ湯沢川は集落の中心を流れ、その左岸にこの砂金採掘跡を見ることができます。入口には経緯を紹介する看板が設置されていますが、通称「かねんば」と呼ばれるこの場所についての詳しい内容は記されていません。町内金山の調査の一環として、この「かねんば」についてその歴史を解明しようと、かねてから合間を見つけては現場確認調査を行っています。

謎多い柴金の歴史解明に近づくことができれば、15世紀から始まった山金技術へと続く鉱山史の系譜に「柴金」が加わり、鉱山史研究全体の深まりも期待できます。そうした理由から、落葉して地表面が確認しやすく蛭が活動しない冬季に調査を進めています。地元に残され、かつ全国的な事例としても数少ない柴金採掘遺構ですから、確認と比較考察を進め、操業期や採掘方法など詳細を明らかにしながら今後の鉱山史研究に資する基礎データの蓄積を図っていきたいところです。

## 2/18 ㊦ 井川金山柴金遺構現地調査

この日、代表的柴金産地の静岡県安倍川流域にある井川の山中に赴きました。地域の歴史を紹介する川根本町にある「やまびこ資料館」では鈴木正文館長に展示解説スルーガイドいただき地域に残る産金情報を伺いました。その後は、柴金遺構の現場を確認しました。あいにくの雨でしたが、柴金遺構の比較研究に一步踏み出すよい機会となりました。



## 3/15 ㊦ 資源・素材学会春季大会 2023 「鉱業史」

当館の調査研究活動とその成果を発表する場のひとつである「資源・素材学会」の春季大会2023が千葉工業大学津田沼キャンパスで開催されました。時代や国を問わず、地質、冶金、歴史、考古、鉱山工学、関連技術が含まれる研究を対象とした「鉱業史」では、今回、全部で9本の発表がありました。そのうちの1本で、小松・伊藤両学芸員が「山梨県身延町・大城金山の砂金採掘坑の形状計測」と題し、採掘域の形状測量と遺構の概況やならびに考察を報告しました。



## ■活動報告 01 1月 “砂金地図” 展示資料が 222 点に

常設展示の目玉である「自然金マップ・日本砂金地図」では、現在、222産地の砂金資料を公開中です。砂金の輝きに多くの方が目を奪われるこれらの資料ですが、資料があるからといって誰でも簡単に採取できるわけではありません。ご寄贈くださる方々の精力的な活動と努力により着実に収集されたもの、そのポイントには砂金があるという事実を伝える物証であり「黄金の国ジパング」を可視化した展示となっていますので、ご来館の際にはぜひご注目ください。



## ■活動報告 02 1/20 金～2/21 火 「山梨の遺跡発掘展 2022」 巡回パネル展

毎年、山梨県立考古博物館において、県内における発掘調査の成果を紹介する企画展「知ろう！山梨の歴史 山梨の遺跡発掘展」が山梨県埋蔵文化財センター主催で開催されています。金山の歴史を紹介する博物館として幅広く地域の歴史を紹介していこうと、巡回展としてパネル展示を行っています。NHK ニュースで紹介されたこともあり、期間中は多くの方がお越しくださいました。

## ■活動報告 03 2/4 土 金山遺跡砂金研究フォーラム

立春にあたるこの日、金山博物館を拠点に展開するフィールドワークの経験や体験、疑問点などをテーマに、11回を数える「金山遺跡・砂金研究フォーラム」が開催されました。博物館応援団 Au 会のみなさんが企画・開催する研究発表会。ロシアの砂金採り道具である「ロトーク」について自身で製作し、道具そのものの採取能力の実証実験を報告したのは砂金甲子園でもおなじみの灘校の野村敏郎さん、砂金掘り世界大会に毎年参加し、その状況を写真と共にレポートした若月章弘さん、岐阜県高山市落部金山を探索し、それぞれの視点で発表した伴尊行さん、広瀬義朗さんら4名の発表に、聴講者は興味深く耳を傾けていました。



## ■活動報告 04 2/20 ㊄ よしもと山梨動画応援隊シリーズ

山梨県ゆかりの吉本興業所属芸人やインフルエンサー等からなる「よしもと山梨動画応援隊」。県公式 YouTube「山梨チャンネル」で山梨県の魅力を PR する企画です。このほど同チャンネルで下部温泉郷が取り上げられ、当館の砂金採り体験が紹介されました。ナビゲーターは、県内で活躍中の吉本お笑い芸人「ダンビラムーチョ」のお二人。



↑動画はコチラ



3月24日から配信スタートしており、砂金採り体験の魅力をわかりやすく愉快地に伝えています。二人が繰り広げた30分間の砂金採り真剣勝負。背後でさりげなく応援するもーん父さんの姿も必見です☆ ぜひご覧ください。

## ■活動報告 05 3/13 ㊄ 第15回 いでさんぽ & 3/25 ㊄ 第26回 館長講座

教科書などで誰もが一度は見たことがあるであろう、あの「国宝 金印」が期間限定公開で福岡市博物館から山梨県立博物館にやってきました。金山の歴史を紹介する博物館として見逃せない機会ということで「いでさんぽ」を行い見学の機会を設けました。参加者の皆さんは本物の金印にドキドキワクワク。NHK ニュースの取材も同行し、今年度ラストにふさわしいにぎやかさで幕を下ろしました。(※関連記事P.2～3 館長コラム)



また、今年度ラストの館長講座では、20日の「いでさんぽ」にリンクした内容で、弥生時代の大陸との交渉の証である金印を中心に、全国で出土した古代の金製品の話も交えながら話が展開されました。

「金山の歴史と私たちの日常生活を結びつけるためにまず身近な歴史の話題から」という出月館長の意図で開催されてきた館長講座・いでさんぽ。回数を重ねるごとにファンが定着し、次回開催を楽しみにする声の方々から聞かれるまでに成長した当館の人気事業です。バラエティ豊かなテーマで地域の歴史を考え、町内外から多くの方がご参加くださいました。ここで突然ではありますが、惜しまれつつも今回をもちまして出月洋文館長による館長講座・いでさんぽはひとまずの締めくりとなります。ご参加いただきありがとうございます。

「金山の歴史と私たちの日常生活を結びつけるためにまず身近な歴史の話題から」という出月館長の意図で開催されてきた館長講座・いでさんぽ。回数を重ねるごとにファンが定着し、次回開催を楽しみにする声の方々から聞かれるまでに成長した当館の人気事業です。バラエティ豊かなテーマで地域の歴史を考え、町内外から多くの方がご参加くださいました。ここで突然ではありますが、惜しまれつつも今回をもちまして出月洋文館長による館長講座・いでさんぽはひとまずの締めくりとなります。ご参加いただきありがとうございます。

## ■もーん父さん 活動トピックス

### 1/30 ㊄ FM フレンズ 鹿児島もりあげタイガー

鹿児島シティ FM からラジオ出演の依頼がありました。当日はエントランスから電話生出演。そのようすは YouTube「もーん父さんのもんちゃんねる☆」と、もりあげタイガーの Instagram ライブで双方向から生配信されました。番組は“見るラジオ”と化し、遠く鹿児島の方々に、もーん父さんと当館を知ってもらえる良い機会となりました。

### 2/23 ㊄ 20th ムジナもん誕生日

たくさんの方に当館の魅力を直接届けようと、埼玉県羽生のマスコットキャラクター「ムジナもん」の20回目のお誕生日会にもーん父さんが参加しました。天候に恵まれた中、全国のキャラクターのお友だちやイベント参加者と楽しい時間を過ごしながら博物館の PR をしてきました。こうして知り合えた方々が今度は博物館に足を運んでくれるよう、もーん父さんは、これからも湯之奥金山博物館広報マスコットとして精力的に活動していきます。





↑イベントのようすは  
こちら

## もーん父さんグッズに2点の新商品！

これまで要望の声が多かった「ソックス」がようやくグッズの仲間入り。くるぶし丈で、もーん父さんの顔が刺繍されたキュートな仕上がりです。またボールペンは、もーん父さんのイメージカラー・ブルーを基調とした、やさしい色合いのデザイン。こちらは当館売店で取り扱っておりますので、お手に取ってご覧ください。そのほか、Tシャツやトートバック、ステッカーなどバラエティ豊かにグッズ展開しています。



## ■ 2023年1月～3月メディア出演情報

- 1/14 「ミュージアムキャラクターアワード2022・GP受賞後のもーん父さんについて」(山梨日日新聞)
- 1/26 「山梨の遺跡2023パネル写真展～」(NHK甲府ニュース)
- 1/30 「おしえて!ご当地キャラクター」にもーん父さんがラジオ出演(フレンズFM かごしまラジオ)
- 3/4 「SAMURAI WISDOM-TAKEDA SHINGEN-」(NHK WORLD JAPAN)
- 3/14 「いでさんぼー国宝金印に会いにいこうぞー」(NHK甲府ニュース)
- 3/14 リバーサイドパークのカワヅザクラについて(山梨放送 ワイドニュース)

## ■ 2023年3月～5月までの予定

### 知ろう!山梨の歴史!「山梨の遺跡発掘展2023」

山梨県内における発掘の最新情報とともに湯之奥・中山金山の紹介と金挽臼の展示がされています。ぜひご覧ください。

- ・会 期：3月11日(土)～4月9日(日)
- ・場 所：山梨県立考古博物館 企画展示室 ※観覧無料
- ・時 間：午前9時～午後5時(最終入館は午後4時30分)

### 下部温泉郷写真展 第3弾 開催中!

ただいま当館1階エントランスホールにて、「写真で見る下部温泉郷第3弾～昭和繁盛期～」を開催中です。この写真展は、JR身延線下部温泉駅前に健康増進施設が建設され新しい変化がもたらされる中、下部温泉郷の思い出を振り返るとともにこれからを考えるきっかけにしてほしいと、下部区が主催となり企画・展示してくれたものです。約100年目の黎明期編、めまぐるしく移り変わっていくようすが写し出された戦後～高度経済成長期編に続き第3弾は「昭和繁盛期編」。昭和期がテーマです。生き活きとしたにぎわいの昭和期がテーマです。地元の皆さんが提供する貴重な数々の写真、どうぞお楽しみください。

- ・会 期：3月11日(土)～5月30日(火)
- ・場 所：博物館1階 エントランス壁面 ※観覧無料

5/3(水祝)～5/5(金祝)

G.W.も金山博物館へ！  
5月3日は水曜日だけど祝日なので開館！

今年のゴールデンウィークも楽しい、嬉しいイベントでお待ちしています！詳細は公式HPをご確認ください。

### 開館25周年記念 企画パネル展「鉱山史研究のいま」

・会期：3月21日(火・祝)～4月25日(火)  
・場所：1階 多目的ホール ※観覧無料

湯之奥金山の総合学術調査から32年。さらに湯之奥金山の歴史を解明していこうと、当館では今だからこそ取り入れられる調査手法を使って、試行錯誤を重ねながら調査を継続中。その成果は少しずつ蓄積され、湯之奥金山研究の着実なあゆみとなっています。25年の節目に、これまでの調査成果を振り返りつつ、内山・茅小屋両金山の黒川・中山金山に続く、史跡追加に向けた取り組みに弾みをつけようと、企画パネル展「鉱山史研究のいま」を下記日程で開催中。どなた様もお気軽にご覧ください。



### ・・・ 博物館 ご利用案内 ・・・

**開館時間** ▶午前9時～午後5時まで（最終受付 午後4時30分）毎週水曜休館

感染防止対策の詳細は、今後も国の方針にあわせて柔軟に対応してまいります。また、博物館における新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドラインに基づき対策を実施しています。皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

#### <主な事項>

- ・マスクの着用に関しては個人の判断にゆだねることが基本ですが、混雑時には、安全対策の観点からマスク着用をお願いする場合があります。
- ・入館時には 検温・手指消毒にご協力をお願いします。
- ・館内では、消毒・換気を徹底し、各所にハンドソープや消毒液を設置しています。皆様の手洗い・手指消毒の徹底をお願いします。
- ・砂金採り体験室および展示室の混雑時には、密回避のため時間差でのご案内をさせていただきます。
- ・発熱、風邪症状、味覚障害など体調に不安がある方はご来館をお控えください。

### 編 | 集 | 後 | 記

今年の春もリバーサイドパークの桜がきれいに咲きそろいました。皆の目を楽しませ、心を和やかにしてくれた木々が桜色から若葉色の装いにうつり変わる頃、当館は、開館25年の節目イヤーを締めくくり、いよいよ26年目に突入します。4月から新体制となりますが、これまで積み上げてきたものをたいせつにしながら、新しい風も吹き込ませながら、楽しく学べる博物館であり続けたいと思います。引き続きどうぞよろしくお願いいたします。

甲斐黄金村・  
湯之奥金山博物館だより

第103号

令和5(2023)年3月31日

発行 甲斐黄金村・湯之奥金山博物館

〒409-2947 山梨県南巨摩郡身延町上之平1787番地先

TEL 0556-36-0015 FAX 0556-36-0003

博物館HP▶<https://www.town.minobu.lg.jp/kinzan/>

E-mail▶[yunoking@town.minobu.lg.jp](mailto:yunoking@town.minobu.lg.jp) もーん父さん▶Twitter & Facebook

